

日刊 動労千葉

81.9.14
No.845

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五〜六（公衆）四三二二（二七）二〇七

55年度 国鉄監査報告書

狙いは、オマ生。大合理化。響き

国鉄および国鉄監査委員会は、八月二十七日、運輸大臣に対し、決算、監査報告書を提出した。「一兆円を超える赤字」を前面化したこの報告書の狙いは、「国鉄経営の健全化」などでは決してなく、明確に「合理化の促進」と「人件費の削減」を柱とする「軍事大国化のための国鉄」作りと、日本労働運動の戦闘性を代表する国鉄労働運動の圧殺である。

「第二マル生的職場管理の強化」 で三五体制推進を宣言

「報告書」によれば、一九八〇年度の「純損失は一兆八十四億円で前年度より一八六六億円増、そのうち、退職金・年金の増加分が三二六八億円で前年度に対し一〇二四億円（46%増）と全「赤字増加額とほぼ等しくなっている。この年金、退職金による特定損失が純損失の32%を占めているのである。

また、この特定損失を除く経常損益のうち営業活動の成果を表わす営業損益は七六年から七九年まで減少していたものが八〇年度は四三七六億円と前年より二二六億円増加している。その中で地方交通線の「赤字」が三二三五億円を占めていることが強調されている。

そして、この「報告書」は、「経営再建を目指して」「昭和六十年三十五万人体制を実現」せよ、「鉄道特性を発揮し難い地方交通線の減量化施策」を「不転の決意をもって」推進せよ、と主張しています。

同時に、「職員管理」について、「職場管理の改善努力は、全国的には着実に成果をあげつつあるが、なお一部の職場においては、悪慣行、現場協議の運用上の乱れ等がみられることは誠に遺憾である」とし、「現場管理者のリーダーシップ」を強め職場管理を強化せよとしています。

これらの点に、この「報告書」の狙いが明確に示されています。
八一春闘の惨敗を背景に進められつつある「統一推進会」などの動きに見られる日本労働運動の雪崩うつ産報化への動き、十七年ぶりのストなし春闘に追い込まれた国鉄労働運動の状況を見通した敵が、三五万人体制攻撃をさらに強め、追い討ちをかけることを宣言しているのである。

「35体制・第二マル生」導入の水先 案内人Ⅱ「本部」反動分子を許すな！

一方で政府・国鉄当局は、国鉄「赤字」の七割

が大企業優先の貨物「赤字」であること、また、新幹線など不要不急の設備投資を不況対策、大企業救済対策として借金政策をもって行ってきたこととのツケが四七六四億円、八〇年に政府が「タナ上げ」した過去債務の利子補給金三四四億円、大型工事の借金の利子で将来に繰りのべ払いをしている一二四四億円を合わせて、借金の利子支払いは一兆円近くに、一日当り二十六億円にもなるということ、など政府・資本にとって都合の悪いことは「よく見なければわからない」ようにひっそりともぐり込ませ、大企業のための国鉄としてより純化しようとしているのである。

このように中で、国労・動労中央の三五万人体制への屈服、とりわけ「本部」反動分子の「貨物安定宣言」路線をはじめとする全面的裏切りは全国の多くの国鉄労働者から厳しく糾弾されている。

津山暴力大会における「本部」反動分子の「安定宣言」路線と動労千葉を中心とする全国の戦闘的、良心的代議員の提出した修正動議を、いま読み返すならば、動力車職場を敵に売り渡すセクト方針Ⅱ「安定宣言」の犯罪性は何よりも鮮明である。「本部」反動分子は、暴力大会をもって助士廃止反対闘争以来の動労の戦闘性を敵・権力・国鉄当局に売り渡したのである。

「反合・三里塚」の爆発で、「軍事大国化」 のための国鉄づくりを粉碎せよ！

今こそ、反合・三里塚ジェット闘争を基軸とする動労千葉の路線的正義性は鮮明であり、であるからこそ「軍事大国化のための国鉄」作りに対する最大の障害物として敵の攻撃が集中している。

この集中する弾圧をはね返し、「一兆円赤字」を口実とする三五万人体制攻撃の強まりを粉碎し、職場と労働条件を守り抜く闘いを構築してゆこう。動労千葉の反合・三里塚ジェット闘争こそが軍事大国化―国鉄三五万人体制攻撃を粉碎し、勝利することのできる真に階級的労働者の道なのである。

「国鉄35万人体制」粉碎！ 「1兆円赤字」の絶叫をもってする 35万人体制攻撃の強化

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！